

小川哲

# 地図と拳

## 読書ガイド

文・構成・デザイン すすきたけし  
制作 集英社

日露戦争前夜から第二次大戦まで、満洲・奉天の東にある名もない都市で繰り広げられる知略と殺戮。

日本からの密偵に帯同し、

通訳として満洲に渡った細川。

ロシアの鉄道網拡大のために派遣された神父クラスニコフ。

叔父にたまされ不毛の土地に移住した孫悟空。

地図に描かれた存在しない島を探し、海を渡った須野……。

圧倒的スケールで描かれた架空の都市と男たちの運命。

鬼才・小川哲が放つ

歴史×空想小説。

第十三回山田風太郎賞受賞、

第一六八回直木賞候補作。



集英社 定価 2,420 円 (税込)

## 登場人物

高木	日露戦争前夜、参謀本部から特別任務を帯びて大陸に赴き、ロシア軍の狙いを調査。
細川	高木の通譯として李家鎮に赴く。日露戦争後は満鉄に勤務。
須野	氣象學者。満鉄歴史地理調査部から青龍島が実在するか調査を依頼され、細川と出会う。
須野明男	帝国大學で建築を学ぶ。仙桃城（李家鎮）で都市開発に関わる。須野の子。
高木慶子	高木の妻。
石本	明男の帝大建築學科時代の先輩。
安井	仙桃城の日本軍守備隊憲兵。
福田	關東軍主計大佐。細川とは日露戦争からの付き合い。
李大綱	千里眼の持ち主。李家鎮の王。武術道場をひらき神拳会と名付ける。
孫悟空	義和團の拳匪。張作霖の配下。のちに仙桃城を據点に東亜公司を率いる。
孫丞琳	抗日ゲリラ。ダンスホールで明男と出会う。
クラスニコフ	李家鎮の教会に住むロシア人宣教師。ロシア帝国皇帝の命により満洲一帯の測量隊に加わっていた。



# 地圖と拳を知る

## 【満洲】

中国東北部の地域。日露戦争に勝利した日本はロシアが持っていた南満洲の権益を獲得。一九三二年に日本の関東軍が中心となり、清朝最後の皇帝溥儀を執政に傀儡国家である満洲国を建国した。

## 【満鉄】

南満洲鉄道会社。満洲の長春と旅順を結ぶ鉄道。日露戦争に勝利した日本がロシアが敷設した東清鉄道の支線の営業権を得て設立した半官半民の鉄道会社。

## 【日露戦争】

一九〇四年から一九〇五年にかけて朝鮮半島と満洲の権益をめぐり起きた大日本帝国とロシア帝国との戦争。

## 【関東軍】

日露戦争の勝利で獲得した権益を保護するために日本が中国に置いた軍隊。満洲国成立後は満洲全域の守備を担った。

## 【第二次世界大戦】

一九三九年から一九四五年まで続いた世界大戦。

## 【義和団】

拳法による神力を説き、異教や外国人排斥を掲げた秘密結社。一九〇〇年には清朝政府とともに列強との戦争に発展した。「義和団の乱」

## 【大同都邑計画】

建築家の内田祥三、高山英華、関野克らによる都市と農村の開発計画。仙桃城都邑計画のモデル。

## 【抗日闘争】

日本の侵略に抵抗した武装闘争。

## 【張作霖】

奉天軍閥の指導者。関東軍の河本大佐らにより爆殺。

## 【盧溝橋事件】

日本軍への発砲があったとされる事件。日中戦争の引き金となった。

# 年表

地圖と拳  
時代背景

- 一八九四年 日清戦争
- 一九〇〇年 義和団事件
- 一九〇三年 ロシア、東清鉄道を完成
- 一九〇四年 日露戦争
- 一九〇五年 日露講和条約
- 一九〇六年 南満洲鉄道株式会社設立
- 一九一〇年 韓国併合
- 一九一一年 辛亥革命始まる
- 一九一四年 第一次世界大戦
- 一九一五年 対華二十一条要求
- 一九一六年 ロシア、シベリア鉄道が完成
- 一九一七年 ロシア革命。ソビエト政権樹立
- 一九一八年 日本、シベリア出兵
- 一九二〇年 第一次世界大戦終結
- 一九二〇年 国際連盟発足
- 一九二一年 中国共産党結成
- 一九二二年 ソビエト社会主義共和国連邦成立
- 一九二八年 張作霖爆殺
- 一九三一年 満洲事変
- 一九三二年 第一次上海事変。満洲国建国宣言
- 一九三三年 日本、国際連盟脱退
- 一九三七年 盧溝橋事件。日中戦争
- 一九三九年 ノモンハン事件
- 一九四一年 第二次世界大戦
- 一九四一年 真珠湾攻撃。太平洋戦争
- 一九四五年 日本、ポツダム宣言受諾
- 一九四九年 中華人民共和国成立
- 一九五六年 日ソ共同宣言。国交回復

## 小川 哲にハマる4作

### 『ユートロニカのこちら側』



ユートロニカのこちら側  
小川哲デビュー作。都市を舞台にしたSF。徹底的に描かれた先鋭的な傑作小説。

### 『ゲームの王国』（上・下）



ゲームの王国  
ポルポトによるカンボジアのカンボジアのゲームの王国。SF。徹底的に描かれた先鋭的な傑作小説。

### 『嘘と正典』



嘘と正典  
バリエーション豊かなテーマと、トリッキーな構成で挑発的な物語を語る、作家小川哲の傑作。小川哲を知るには一冊。

### 『君のクイズ』



君のクイズ  
シンプルで純粋な競技である「クイズ」を無駄のない純粋なエンターテインメントで描く、ただただ見事というほかない小川哲最新長編。

ハヤカワ文庫 JA  
定価 924 円 (税込)

ハヤカワ文庫 JA  
定価 924 円 (税込)

ハヤカワ文庫 JA  
定価 924 円 (税込)

ハヤカワ文庫 JA  
定価 924 円 (税込)

朝日新聞出版 単行本  
定価 1,540 円 (税込)